

「お母さんっていう仕事は、家族のために
って思うと全然苦じゃないよ。」笑いながら母
が言った。「働く人」の言葉で僕は母の姿が
真つ先に頭に浮かんだ。それは、外で仕事を
する母ではなく、家事をする母の姿だった。
僕は長い休校中、家事をする母の姿を真近
で見えて、いろいろなことに気付いた。当たり
前のようにやってもらっていた事がいかに大
変でありがたいことなのかを実感した。温か
いご飯、きれいにたたまれた洋服、片付けら
れた部屋の中でいつも僕は生活していた。
ある日、母の手伝いをした時に「ありがと
ね、助かったわ。」と言われ、僕はとても嬉し
かった。それと同時に自分を振り返り、当た
り前だと母へ感謝する気持ちが足りなかった
ことが恥ずかしかった。いつも僕のそばにい
てくれる母に言ってなかった、言えなかった
ありがとうがあふれ出てきた。これからは、
声に出さなきゃ伝わらない思いを伝えてい
うと思った。「母さん、いつもありがとう。」

こくぼ あやと
小久保 彩人さん

